



sousei akita

曹青秋田

2010.8 第69号 秋田県曹洞宗青年会

*平成22年度 第24回 『弁道会』報告

《五条衣の変遷した絡子と守持衣》

講師 川口高風 老師 (愛知学院大教授)



「弁道会」 講師 愛知学院大教授 川口高風老師

今年度の「弁道会」は去る七月二〜三日の二日間に行われ、講師に川口高風老師(愛知学院大教授)をお招きし、講義を頂戴致しました。

講義を始めるにあたって資料文献を読む前に老師のお持ちいただいた各宗の今昔の様々な五条衣、守持衣、絡子等を見せて頂きました。お陰で実物を目にしてからでしたので大変分かりやすい講義とな

りました。「五条衣」といっても時代とともに縮小され様々な形に変わり、更には各宗派により掛け方も違ふこと、事など、これほど変遷したものはないこと事でした。このような事から老師は現在の曹洞宗の絡子は過去の歴史から見て、環があり両山紋がついていて、両本山折衷した和合のシンボルであるとおっしゃっていました。また道元禪師の搭袈裟法にも触れられました。禪師の著作から考察すると四分律より義浄の有分律説を重視した袈裟になるはずだが、禪師の説く掛け方の木像や禪師像が見当たらず、現在に至っても物的証拠がないこと事でした。何れにしても、現在の永平寺における掛け方とは違ったものであるといつから、ある意味驚きでもありました。講義の冒頭、来秋される二週間前に老師のお母様が急逝されたとお話を聞き、押し付けて下さった老師に感謝の念とお母様の「冥福をお祈り申し上げます。合掌

のお話もまじえながらその歴史がよくわかりました。時代によって袈裟掛法も幾通りがあり、明治期には六通りも方法があったようです。またその当時掛け方が統一されていなかった証拠として同人物が違った掛け方をしている写真が残っていたりと、時間が経つのを忘れるくらい楽しく貴重な講義でした。

書籍だけでは知り得ない活きた言葉を学ばせていただき、僧侶としてお袈裟に対して意識を高めることができました。

ありがとうございました。

合掌

川口高風老師からお願い

この度の講義内容に関連して五条衣、またはそれから変遷した絡子や守持衣等を探しております。皆様の「自坊に珍しい物やご老師には是非見てもらいたい物等ありましたら、直接連絡して頂きますよう御協力お願い申し上げます。連絡先は

〒456-0035

名古屋市熱田区白鳥1-2-17

法持 寺様まで

県内寺院様へ

全国曹洞宗青年会「のたひ」Ranga、曹洞宗寺院情報サイト

<http://www.sousei.gr.jp/sanga/>

がオープンしました。

「寺院様が自分で簡単な寺院紹介ページを作成する事が出来ます。ネット上の情報公開は必要不可欠なものとなってきております。操作は簡単です。是非是非登録ください。ちなみに秋曹青WEB委員から出向した山田俊哉師が作成に関わっております。何卒宜しくお願いいたします。



sousei akita

曹青秋田

発行所:秋田県曹洞宗青年会

事務局 010-1102 秋田市太平目長崎字本町58 源正寺内

発行責任者:明石浩延 編集責任者:工藤範隆(お問い合わせ先 015-0011

由利本荘市石脇字石脇108-5 石龍寺内)

秋曹青ホームページ <http://www.sousei-akita.net/>

五条衣の変遷について

十六教区 松雲寺 中村智信

講義前、明石会長より「モデルお願い色々あるらしいから」と声をかけられ、川口老師が持参された諸宗派の様々な五条衣を着けさせて頂く貴重な機会を得た中は一見しただけでは着け方に迷うもの全くわからないものもあり、講題の「五条衣の変遷」ということを身で経験させて頂いた。檀務の折、「元を辿っていけば一つ（お釈迦様）になるはずなのに何故これだけの宗派ができたのか。」というような質問を受けることがあるが、多種多様な五条衣に何故こんなにも同じ様な印象をもった。「袈裟功德」には「今案の新作袈裟を受持すべからず」とある。宗派に関わらずとも新たな形を作り、被着するといったことは尋常ならざる研鑽、あるいは時に覚悟を要することだったのでないか。師は「格好良さ」を先人が追求された結果、様々な五条衣が作られるに至った。」と言われた。道元禅師が今現在の絡子をどのように御覽に



川口高風老師を囲んで記念撮影

なられるかは窺い知れることではないけれども、現行の絡子もまた長い年月の変遷の結着であり、それを着ける一人としてこの度の講義よりその重みを感じさせて頂いた。

弁道会に参加して

十二教区 千手院 斎藤實圓

今回の弁道会は、二日間にわたり愛知学院大教授の川口高風老師よりお袈裟について講義をいただきました。

僧侶にとって身近なお袈裟＝絡子ですが、その歴史には絡子の他に守持衣という五条衣のお袈裟が身近に存在していたことを知りました。インドの五条安陀衣が中国で縮小化されて掛絡や守持衣となり、さらに日本で一層の小型化が進んだと考えられていることなど、老師は資料として文献や掛け軸などを読み解き講義を進めてくださいました。また実際に守持衣の複製や宝蔵されている絡子の複製、他宗門の絡子など様々見せてくださり、そのお袈裟一枚一枚が興味深いもので今に至る絡子、守持衣の変遷がわかりやすく感じられました。

道元禅師頃の搭袈裟法についても講義いただきました。今現在考えられるという前置きでのお話でしたが、映画『禪』の時



会員をモデルに説明される老師



開講式で挨拶をする明石会長



百聞は一見にしかず・・・分かりやすく説明される



各宗派様々に変遷した数々の五条衣を拝見させていただきました

